

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームたんぽぽ あい	評価実施年月日	H19.4.30				
評価実施構成員氏名	阿部 国沢	植津 西田	林 守護	山田	谷風	小松	平山
記録者氏名	阿部 美由紀	記録年月日	H19.5.15				

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念を作成し、事務所・リビングの見える位置に表示している。</p>	<p>全職員が理念を念頭に置いたサービスを提供していくよう努める。</p>
	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念とは別の言葉で表現しているが、実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念が念頭になく、理念に向けての取り組みに対し共通の認識を持っていないため、全職員が共通の認識を持てるよう努めて行く。</p>
	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会・たんぼば便りを通じ、理解してもらえるよう努めている。</p>	<p>理解してもらえるようこれからも努めて行く。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等で会った時には挨拶はするが、それ以上のつきあいはできていない。</p>	<p>運営推進委員会・町内会等を通じて、日常的なつきあいができるよう働きかけて行く。</p>
	<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ホームの行事への参加や地域活動参加への意欲を働きかけているが、あまりできていない。</p>	<p>運営推進委員会・町内会等を通して、行事への参加を働きかけて行く。</p>
	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>行事の手伝い等、働きかけはしているが出来ていない。</p>	<p>運営推進委員会・町内会等を通して、役立てることはないか等、働きかけて行く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>毎年評価を行い、指摘された事を全職員に公表し、改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が自己評価・外部評価の意義を理解し、改善に取り組んだ経緯・内容等理解してもらえるよう努める。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>報告や話し合いをしている。</p>	<p>意見等特に出てきてはいないが、出てきたときにはサービス向上に向け活かして行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市や包括支援センターとの連携については充分認識している</p>	<p>サービスの質の向上に向け、市町村担当者等と行き来する機会を作っていく。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度についての研修の機会を認識している</p>	<p>必要性を感じたときでは遅いため、学ぶ機会を設け、いつでも活用できるような体制をとっていく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>学ぶ機会には特に設けていないが、虐待について理解し、防止に努めている。</p>	<p>研修会に参加する等、学ぶ機会を設けていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者の状態・状況により、家族等と相談するなど話し合いの機会を設けている。</p>	<p>入居時に退所となりうる例等をあげ、家族に理解・納得してもらえるよう図っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を明確にしている。また、家族・職員等に利用者が訴えることもある。		家族・職員等へ訴えがあったその際、意見・不満等を解消できるよう話し合い、それらを運営に反映させるよう努めている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	職員の異動等については話してはいるが、近況については状態・状況に合わせ電話や年4回発行のおたより等で報告している。		今後も電話やおたよりを続けていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情の窓口を明確にしているが、特に意見・苦情等聞かれていない。		意見・苦情等、訴えがあった際、その都度話し合い、解消できるよう努め、運営に反映させていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回職員会議を設けている。		意見・提案を聴く機会を設け、職員全員で話し合うように努めている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状態・状況に応じ対応するよう努めている。		行事等、休日の職員にボランティアの声掛けをする等している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	最小限に抑えている。		利用者等に説明をする必要はないと思うが、利用者にダメージを与えないよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	研修の機会を設けている。	資格等は個人の気持ち・努力に任せている。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	研修会での交流はあるが、相互訪問等の交流はない。	研修会等で交流の幅を広げ、相互訪問等交流ができるよう努めて行く。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	ストレス軽減はくふうしている	職員が個々で努めていく。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	資格取得等、意欲のある職員に対し、講習会等に合わせた勤務にしたりしている。	職員間の意思疎通がしっかりとできておらず、向上心につながらないところがある為、改善できるよう努めていく。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居前には安心して過ごせるよう見学や話を聞く等努力している	本人の求めていること等を聞き、受け止められるよう職員間でも相談し、対応できるよう努めていく。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	話を聞き、受け止められるよう努力している。	家族の求めていること等を聞き、受け止められるよう職員間でも相談し、対応できるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状態・状況等に合わせ、特養への申し込みを進めるなど、対応に努めている。		施設以外のサービスを利用したくても、介護保険を使った他のサービスを利用できないため、ホーム内でその人にあったサービスを提供できるよう努めていく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	他利用者と馴染めるよう努力し、本人・家族等と相談しながらサービスを提供するよう努めている。		本人が納得し、安心してサービスを利用できるよう、本人・家族等と相談し工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中から学んだり、支えあう関係を築けるよう努めている。		より本人と共に過ごし、支えあえるよう会話やレク等、コミュニケーションを増やす工夫をして行く。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事・面会時等に本人の状態・状況等を知らせてはいるが充分とはいえず、喜怒哀楽を共にしている関係を築いているとはいえない。		面会時に本人の状態・状況等を今まで以上に詳しく知らせたり、行事への参加を促す等、共に支えていく関係を築けるよう努めていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事参加への呼びかけや、ケアプラン作成への参加等案内し、よりよい関係が築けるよう努めている。		参加行事を増やしたり、外出・外泊の働きかけをしていく等、よりよい関係を築けるよう努めていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームでの生活に順応することに重点を置いているが、面会やドライブ等でなじみの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。		外出や面会等、家族との関わりや馴染みの人との関係が途切れないよう配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	問題行動を起こす利用者に対し、批判ではなく理解して貰えるよう支援している。		利用者が孤立しないよう、他利用者に働きかける努力をしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	遊びに来てもらえるよう働きかけている。		働きかけてはいるが実現されておらず、実現に向け利用中の家族等とのかわりを考慮していく。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	訴えのある利用者に対しては、可能な限り対応するよう心がけている。		意思疎通の難しい利用者については家族・職員等と話し合い、本人本意に検討できるよう努めていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前・入居時に家族・本人から情報を得たり、入居後日常の何気ない会話から把握できるよう努めている。		日常の会話等から得た情報等を、全職員が共有し、サービスに活かせる様努めていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活記録に残す等、現状把握に努めている。		記録等起こった事実のみの記入で、本人の言ったこと・起こした行動等があまり記入されておらず、心身状態の把握が不十分なため、しっかりと記録できるよう努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人と話し合い、介護計画をたてている。		本人との話し合いが難しい場合は、本人本意になるよう検討している。また、作成後に家族に見てもらい、意見等ないか確認している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現状に即した計画を立てられるよう、職員・本人等と話し合っている。		個々の個性・体調等を考慮しながら作成に努めている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行動・体調等、個々の状態の変化等を記録している。		細部まで記録されているとは言えないため、介護計画の見直しに活かせる様努めていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の状況等において散歩・買い物・通院・往診等対応できるよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	避難訓練時、消防に参加してもらっている		運営推進会議等で協力してもらえよう働きかけていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医師の往診・理美容の出張サービスを利用している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの連携の意義については良く理解している		入所時や利用者の状態・状況等によって特養への申し込み等を家族に働きかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護職員がおり、日常の健康管理等の支援をしている。</p>		<p>体調不良時等、状態・状況に合わせ、その都度相談し、対応している。</p>
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関を確保し、定期的な受診・往診をしている。</p>		<p>不安や疑問等があるときは相談したり、受け入れ先の相談をすることもあ</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を確保している。</p>		<p>看護師不在時には、併設施設の看護師と相談しながら対応している。</p>
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>Dr. 看護師と情報交換・相談をし、早期退院に向けた話し合い等をしている。</p>		<p>退院に備え、職員全員が状態・状況等把握するよう話し合いや記録を徹底していく。</p>
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>家族・病院等と話し合い、特養等への転居を進めている。</p>		<p>重度化する前に特養等への申し込みを家族に働きかけている。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>Dr. 等と相談の上、重度のケアに心がけているが、終末期については職員間で徐々に話し合われている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報交換を行い、ダメージ防止に努めている。</p>		<p>家族には、住み替えによるリスクがある可能性等理解してもらえるよう努めて行く。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損ねるような対応をしないよう心がけている。</p>		<p>人前でのトイレの声掛け等、プライドを傷つけるような対応等がないとは言えないため、職員同士注意する等、更に対応を心がける。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自ら納得できるよう、本人に合わせたペースを心がけている。</p>		<p>職員のペースに合わせてしまうことがある為、本人にペースを合わせるよう配慮していく。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の都合を優先にする傾向にはあるが、中でも本人のペースを保てるよう声掛けや働きかけを心がけている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容は出張サービスを利用しているが、希望があれば希望の店に行けるよう支援している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>できる限り一緒に準備や片づけを行っている。</p>		<p>食事が楽しみなものになるようメニューを知らせ、話を盛り上げたりして働きかけていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一緒に買い物に行ったり、喫煙室を設けたりと、その人に合わせた支援をしている。		節度を持った範囲内でも楽しめるよう心がけていく。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表をつけ、パターンや誘導のタイミング等を把握し、支援している。		更に失敗やおむつの使用量を減らしていけるよう、職員間の連携をしっかりとしていく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は決めているが、その日の本人の気分等により時間や曜日を変更している。		24時間風呂のためいつでも入浴できるようになっているが、実際には訴える人や対応する職員を確保できていない。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室やリビングで休憩を取れるよう支援している。		夜間熟睡を心がけているため、休息をとりすぎないように配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人のできること・役割を支援している。		できないと思っていることに挑戦し、やればできるという自信をつけていけるよう支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部の入居者において実施している。		家族に本人がお金を持つことの大切さやリスク等を説明し、一人でも多く本人が所持できるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	週2回の買い物のほかに、天候に合わせてドライブや散歩に行く等外出の支援をしている。		希望にそった外出の支援に努めていく。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事等で普段はいけないところにいけるよう配慮している。		希望にそった外出の支援に努めていく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望したときに支援している。		おたより発行時に直筆のメッセージをつける等考慮していく。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気兼ねなく来てもらえるよう働きかけている。		入りやすい雰囲気作りに努めて行く。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の方の外出は自由に出入りしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関にプザーを設置し、玄関の鍵を開けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人ひとりの様子把握・安全配慮に努めている。また、ヒヤリハットで事故の未然防止に努めている。		職員間の申し送りを密にし、今以上の様子把握・安全配慮に努める。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人納得の上でタバコライターを預かり、要望のあったときに渡すように支援している。		心身の状態に合わせた危険な物品の保管・管理に努める。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態・状況に合わせた対応を心がけている。		対応時の記録を残すように努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練は行っていないがマニュアルを用意している。		消防等の協力のもと、日常的な訓練をしていく等努めていく
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練は行っているが、地域の協力を得られるまでにはなっていない。		運営推進会議等で地域の住人に働きかけていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒・ストレス等のリスクの説明を行い、リスク解消への支援協力を要請している。		家族のかかわり方が消極的なため、日常的な暮らしの支援協力をして貰えるよう働きかけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調等全職員が気を配り、バイタルチェック・看護師へ相談をする等速やかな対応を心がけている。</p>	<p>バイタルチェックの再検忘れ・記録の記入漏れ等があるため、チェック・記入漏れのないように努めていく。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>状態・状況等により服薬確認・介助を行っているが、薬の用法等については理解されていない。</p>	<p>職員一人一人が薬の副作用等について理解できるよう個人記録を見たり、看護師と話をする等努めていく。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>ラジオ体操・ホーム内歩行・水分補給等配慮している。また、排便チェックを毎日行い、状態・状況等により下剤等で調整している。</p>	<p>便秘の及ぼす影響をあまり理解されていないため、説明等により理解を深めるよう働きかける。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後声掛けにより、食堂横の洗面台で歯みがきを行っている。</p>	<p>ある程度自立し、居室に戻る方においては確認が難しいため、1日に1回はチェックする等考慮していく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士により栄養バランス・カロリー計算がされている。また、病気や状態・状況により、食事量を調整する等考慮している。</p>	<p>水分補給の声掛けをしても水分を取らない方もいるため、どのようにしたら水分補給をできるのか考慮していく。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>手・手すり等の消毒、インフルエンザの予防接種等、状況・時期等により実行している。</p>	<p>消毒を忘れていたりすることがある為、職員同士お互いに声を掛け合う等、予防対策の実行に努める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	2日に1度の食材の配達、まな板・ふきん・食器等使用の度の漂白・消毒に努めている。		鍋・お盆の消毒等にあまり配慮されていないため、衛生管理を徹底するよう努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	夏には玄関に花を飾っている。		外観はどうしても施設の造りになってしまっているため、花や窓の飾り付け等季節に合わせた飾り付けを考慮していく。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合わせた制作や手作りの飾り物を飾ったりしている。		まぶしいときはカーテンを閉めたり、不快な音も窓を閉めたり根源を突き止め対処するなど、努めている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングソファーにそれぞれ定位置があったり、居室前にベンチがあったりし、それらの場所で話をしたりしている。		畳のスペースはあるが利用されていないため、活用できるよう働きかけていく。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	使い慣れたものを使用してもらうよう家族に話し、持参して貰えるよう働きかけている。		新しい家具等を持参される方が多いが、その人らしい部屋になっている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気に努め、温度も心地よいものになるよう配慮している。		喫煙する人がいるため、空気清浄機を使用する等、臭い・煙などの対応に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりを配置したり、床はバリアフリーになっている等、建物の造りが配慮されている。</p>	<p>手すり等の設備に不備がある際には、職員で話し合い、事業者に改善の要求をするなど、努めている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や失敗の元になるものに対し、分かりやすく表記するなど配慮している。</p>	<p>一人ひとりのわかる力の維持・改善を図り、自立に向けた支援を心がけている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花や野菜を植えたり、洗濯物を干すなどの活動を行っている。</p>	<p>花等の水やりや日向ぼっこの機会を増やし、ベランダ活用の機会を増やす。</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>もっと自分の思いや願い等、出せるような働きかけを心がける。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>毎日午前・午後のお茶の時間に一緒に過ごす時間を設けているが、業務優先になってしまうこともある為そうならないよう心がけていく。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>個々のペースで暮らせるよう支援しているが、状態・状況により職員のペースになることもある為、そうならないように心がけていく。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員の対応・支援の仕方により生き生きとした表情が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>声掛け・訴えにより、状態・状況に合わせ対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>定期的な受診・往診または常勤看護師に相談する等、迅速に対応できるよう努めている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時の状態・状況に応じ、対応できるよう配慮している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>何かあれば相談に乗り、対処・支援している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>運営推進会議・町内会の集まり等で遊びに来てもらえるよう働きかけていく。</p>

.サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議・町内会の集まり等でグループホームの説明をする等して、理解が深まるよう努めていく。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員一人一人がもう少し責任を持った仕事に取り組むよう心がける。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	意見当あれば改善するよう努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	苦情・意見等特にないため、そう思っている。
【特に力を入れている点・アピールしたい点】			
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)			
毎月その時期・季節に合ったぬりえ・作品作りを利用者と一緒に作成している。			

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームたんぽぽ ゆめ	評価実施年月日	H19.4.30
評価実施構成員氏名	村中渡部 小林目黒 羽喰千葉 木村 佐伯 松木		
記録者氏名	羽喰悦子	記録年月日	H19.5.15

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念を表示し、それに基づいた介護サービスを提供できている。</p>	<p>実施しているが、全職員が実践しているとは思っていないので、全職員が出来ていると思える様に努力して行く。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>目に付く所に表示し、ミーティングなどで話し合い改善している。</p>	<p>筋力低下防止に、ラジオ体操、歩行練習、家事手伝い等、出来る事は見守りさせて頂き、日常生活向上を目指し支援している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>家族とは、たんぼぼ便りで説明したり、常に情報交換出来るようにしているが、地域の方々との関わりが少ない。</p>	<p>ホームに見えた家族には、生活状況を報告また帰りにはご家族にも話を聞いている。 3ヶ月に一度ホームの新聞を発行している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>現在はほとんど関わりがもたれていない状況で散歩の時に挨拶をする程度。</p>	<p>運営推進委員会の活動を通し、町内の行事に参加出来るよう務めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>交流はあまりもたれていない</p>	<p>運営推進委員会などを通して、町内会や老人会などの行事に参加し、グループホームの事も理解して頂きたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>働きかけはしているが、実施されていない。</p>	<p>運営推進委員会、町内会などに参加し、役立てる事はないか等働きかけて行く。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	外部評価で指摘された事を、全職員に公表し改善に努めている。	職員全員が理解し、改善に取り組んでいきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	報告し話し合いをしているが、特に意見はなかった。	意見があれば、サービス向上に生かして行きたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	運営推進会議以外の交流など特に取り組んでいない。	市町村担当者と行き来する機会を作って行く。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	現在のところ、そのような機会はない	学ぶ機会を作り、勉強していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	学ぶ機会には設けてはいないが、最善の注意を払い防止に努めている。	ミーティングで関連する話をしたり、研修などで学ぶ機会を設けている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	家族に説明相談するなど、理解していただくよう努めている。	入居者に暴力を振るうなど、団体生活に支障があるような例を上げ、家族に説明相談し理解、納得を図って行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口を設けており、不満苦情などを訴える事が出来る。		訴えがあった際、不満苦情などがあれば、その都度話し合い 運営に反映出来るよう努めたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	3ヶ月に1回のたんぼば便りの発行で、生活状況を知って頂いたり、ご家族がホームに訪問時報告しています。		健康に関しては、異常があればその都度、TELして報告している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	生活状況を報告する中で、ホームに対しての意見、不満等があれば話して下さるよう声かけしている。		意見、苦情があった時にはその都度話し合い、解決できるよう努め運営に反映できるよう心かけたい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議、毎日2回のミーティングで行っている。		職員全員で話し合い、統一したサービスが出来るようにしている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務時間の調整や、職員の補充など 勤務調整に努めている。		パートの長時間勤務を実施
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限に抑えている。引継ぎなどにて利用者に不安を与えないよう努力している。		利用者に負担にならないよう配慮して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会の機会を設けており、交代で出席している。</p>	<p>資格などは、個人のやる気、努力に任せている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交流や、相互訪問などの取り組みはされていないが、月1回ホーム長が集まり会議をしている。</p>	<p>研修会や勉強会に参加し、交流の幅を広げ質の向上に努めたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレスの軽減は工夫している。</p>	<p>職員が個々で努めていく。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得など意欲のある職員に対し、講習会などに合わせた勤務にしている。</p>	<p>職員間の意思疎通がしっかりと出来ておらず、向上心に繋がらない所がある為、改善できるよう努めて行く。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>不安や求めている事を理解できるよう、話を聞く努力をしている。</p>	<p>本人の求めている事を聞き、受け止められるよう 職員間でも相談し対応できるよう努めて行く。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>話を聞き受け止められるよう努力している。</p>	<p>家族の求めている事なども聞き、受け止められるよう職員間でも相談し対応できるよう努めて行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況や状態に合わせ、特養の申し込みを進めるなど対応に努める。		本人の状況の変化に合わせ、特養などの説明をして行き 施設内でその人にあったサービスを提供できるよう努める。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者と馴染めるよう努力し、本人家族とも相談しながら、サービスを提供するよう努める。		本人が納得し安心したサービスが利用できるよう、本人家族などと相談工夫して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中から、学んだり、支えあう関係を築けるよう努めている。		職員全員が本人と共に過ごし支えあえるよう、会話やレク等コミュニケーションを増やし、昔の遊びを取り入れるなど張り合いが持てるよう、工夫して行く
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来所時に話したり、行事参加で本人の様子を見て頂いて、喜怒哀楽を共にし支えていく関係を築いているとは云えない。		行事、面会時等本人の状況状態をいままで以上に知らせたり、参加を促すなど努めて行く。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事参加への呼びかけや、ケアプラン作成への参加等案内し、よりよい関係が築けるよう努める。		参加行事を増やしたり、外出、外泊の働きかけをして行くなど、よりよい関係が築けるよう努める。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設での生活に順応することに重点を置いているが、家族には今まで通り、状態に合わせ面会を増やして貰ったり ドライブなどで馴染みの人や場所などの関係が途切れないよう努める。		外出や面会など、家族との関わりや馴染みの人との関係が途切れないよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	問題行動を起こす利用者に対し、批判ではなく理解してもらえよう支援する。カラオケや作品作りを他利用者と楽しみながら行っている。		孤立しないよう、他入居者に働きかける努力をしている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	気軽に遊びに来てもらえるよう、働きかけている。		働きかけてはいるが、実現されておらず、実現に向けて利用者の家族との関わりを考えている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人で居たい時など強制せず、本人の希望を聞く。訴えのある利用者に対しては、可能な限り対応できるよう配慮する。		意思疎通の難しい利用者については、家族、職員等と話し合い利用者本意に検討できるよう努めて行く。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時調査票などを元に、サービスの把握に努めている。		日常の会話などから得た情報などを全職員が共有し、サービスに活かせるよう努めて行く。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	調査票などの聞き取りなどで、把握している。日常の様子観察、一日の過ごし方などは生活記録に残している。		日常生活の中で本人と家族と話をしながら、さらに把握出来るよう努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族共に話し合い、ケアプランを作成している。		本人との話し合いが難しい場合本人本位にならないよう検討している。また作成後に家族に見てもらい意見などないか確認している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しと現状に即した計画を立てられるよう職員、本人等と話し合っている。		個々の個性、体調などを考慮しながら作成に努めている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行動、体調等個々の状態の変化等を記録している。		詳細が記入されていない為、介護計画の見直しに活かされていない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	散歩、買い物、通院、往診等、その時々々の要望に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	避難訓練の時に消防に参加してもらっている。		運営推進会議等で協力し合えるよう働きかける。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向に沿って医師の往診・理美容の訪問サービスを受けたり利用したり、必要サービスが受けられるように努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今後意識して包括支援センターとの連携をしていきたい。		入所時や利用者の状況、状態等によって特養への申し込み等を家族に働きかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回協力医の往診あり、Drに相談しながら健康管理を行っており、常勤の看護師が居る。		体調不良等、状況、状態に合わせ その都度相談し対応している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	月1～2回専門医に受診している。		状態報告をし指示を仰いでいる。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤で看護職員1名確保している。		不在でも併設の看護師に相談している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は面会に行き安心して頂き、関係者に状態を知らせて頂いたりしている。		退院に向けて、職員全員が状態、状況等を把握するよう話し合いや記録を徹底して行く。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療的設備がないので、病院とも話し合い 他施設、老健、特老を申し込むよう話している。		重度化する前に特養への申し込みを働きかけている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度期はDrと相談しながらケアしている。終末期については職員間で徐々に話し合われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族とは話し合いを持ちますが、本人には家族から話す方向が多いと思う。</p>		<p>リスクの可能性を家族に話しておく。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々に合わせた言葉かけをし、記録には実名は記入しない等。</p>		<p>常に入居者の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応はさける。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>外出や買い物等、本人の意志を中心に組み立てよう心がけている。</p>		<p>職員のペースに合わせてしまう事がある為、必ず本人にペースを合わせるよう配慮する。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その人らしい暮らしを目指しているが、職員に合わせる傾向がある為入居者主体に考えていきたい。</p>		<p>入居者主体としての日常生活の支援を心かける。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月1回の床屋が来ている為、本人希望または声掛けで行っている。また行きつけの美容室、床屋に行っている方も居ます。</p>		<p>本人の望む支援をして行く。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一緒に準備や片付けをするようにしているが、全職員が出来ている訳ではない。</p>		<p>食事が楽しいものになるよう、メニューを知らせ話を盛り上げたり働きかける。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙室を設けている。 買い物の日好きな物を買うなど、楽しめるよう支援している。		買い物は一部の人だけなので、全員が行けるようになるよう支援したい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	状況に合わせてさりげなく声掛けしている。		個々のパターンに合わせた声掛け見守りでオムツにならないよう支援していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ホームの都合で入浴しているが、入浴を楽しめるよう支援していく。		本人が自由に入浴できるよう取り組みたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	穏やかに安心して過ごせるように心がけ、疲労の程度に応じリビングや自室で休めるよう支援している。		夜間 熟睡を心かけている為、休息をとり過ぎないように配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人に出来る範囲の役割を考えたり、カラオケや散歩などをしている。 生活歴や力を活かした支援については出来ていない。		一人一人の生活歴や力を良く知り全職員が個々にあった支援の出来るよう努める。 出来ないと思っている事に挑戦しやれば出来ると言う自信をつけるよう支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談しながら支援していくが、本人がお金を所持するまでには至っていない。		家族に本人がお金を持つ事の大切さやリスクなど説明し本人が所持できるよう努めて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全員ではないが、毎週買い物に行ったり体調、天候によりドライブや近所を散歩するなど出かけている。		天候や体調を考えながら、外出を多くしたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事などで普段は行けない所に行けるよう配慮している。		希望にそった外出の支援に努める。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は本人が希望したときに自由にかげられる。		家族や友人に連絡したい時は電話をしている。 たんぼば便り発行時に直筆のメッセージを付けるなど考慮して行く。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問出来るよう、対応している。自室で面会されたり、時には職員も一緒にリビングで対応している。		居ごごちの良い雰囲気作りに努めて行く。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵は開放されており、チャイムを使用		鍵、プザーを使用する事無く、職員による見守りや付いて行く対応が出来るよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全に配慮しているが、ほぼ自立している方については自室に居ることが多く目が届かない場合もある。		コミュニケーションを多く持ち様子を把握できるよう心かける職員間の申し送りを密にし今以上の様子把握、安全配慮に努める。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その人に合わせ、ライター、刃物など保管管理をしている。要望があった時は渡すよう支援している。		心身の状態に合わせた危険な物品の保管管理に努める。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットで事故の未然防止に努めている。		対応時の記録を残すよう努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	講習会は行っているが、定期的訓練は行っていない。		消防などの協力の元、日常的な訓練をして行くなど努めて行く。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の防災訓練を実施している。運営推進委員会が発足したばかりなので、地域の協力体制はまだない。		訓練の実施と地域との交流を深め、協力を得られるよう働きかける。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒、ストレス等のリスクの説明を行い、リスクの解消への支援協力を要請している。		家族の関わり方が消極的な為、日常的な暮らしの支援協力をしてもらえる様に働きかけて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタルチェック、検温を行い毎日のコミュニケーションの中から、体調変化、異変など発見 看護師と相談対応している。</p>	<p>変化があっても情報が全職員に伝わらない場合があるので、情報の共有、「報連相」の徹底。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>理解しているが、全部ではない。看護師が常勤しているので、その都度相談している。</p>	<p>職員一人一人が薬の副作用などについて理解出来るよう、個人記録を見たり看護師と話をするなど努めて行く。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>決まった時間以外にも、水分補給が出来るようポットを置き自由に飲用して頂く。ラジオ体操後、歩行、立ち上がり等を個々に合わせて行っている。</p>	<p>便秘の及ぼす影響をあまり理解されていない為、説明などにより理解を深めるよう努力して行く。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食堂の洗面所に歯ブラシセットを置き起床時、毎食後に行っている。</p>	<p>ある程度自立し、居室に戻る利用者において 確認が出来ていない為 1日1回はチェックするなど努めている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士による献立なので、栄養摂取できている。水分確保が困難な方は職員が介助している。</p>	<p>声掛けや介助でバランス良い栄養、水分補給を支援する。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>予防接種をしたり、ホーム内消毒をするなど職員、入居者共に手洗い、タオル交換など実行している。</p>	<p>時期的なものだけでなく、常時、清潔を保つ</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理用具等の消毒、除菌を行い清潔に心かけている。2日に1度の漂白、消毒に努めている。		鍋、お盆の消毒などにあまり配慮されていない為、衛生管理を徹底するよう努めて行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	花を置くなど、明るい雰囲気を作るように心かけている。		外観はどうしても施設の作りになってしまっている為、花や窓の飾りつけなど、季節に合わせた飾りつけなど考慮して行く。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節ごとに制作したものを飾ったり、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		まぶしい時はカーテンを閉めたり、不快な音も窓を閉めたり、根源を突き止め対処するなど努めている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	一人になる共用空間は、自室で気の合ったもの同士はリビング等にて過ごされている。		畳のスペースが利用されていない為、活用できるよう働きかけて行く。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室内は家族、本人が自由に使うので、使い慣れたものや好みのものを持参している。		新しい家具等を持参される方が、多いがその人らしい居室になっている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	台所、使用時は換気をかけ臭いが少なくなるよう心かける。窓の開放おんど調整にも気を付けている。		こまめに換気や温度調節を行うよう配慮する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自由に歩行練習が出来るように、バリアフリーになっている。 廊下には危険になる対象物は置かず広々としておく。</p>	<p>手すり等設備に不備がある際には職員で話し合い会社に改善の要求をするなど努めている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>声掛け見守り、出来る事の支援に努める。</p>	<p>一人一人の分かる力の維持、改善を図り、自立に向けた支援を心かけて行く。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花壇づくり、ベランダには家庭菜園、布団干し、洗濯物干し、日向ぼっこ等に活用している。</p>	<p>花や野菜の水やりを朝のうちにやる等 日中気温が上がらないうちに工夫しながら、花壇を楽しんでいる。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>自分の思いや意向を出せるよう働きかけ支援していく。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>午前 午後のお茶の時間に一緒に過ごす時間を作っているが、あまり一緒に飲む姿を見ることが出来ない。 業務優先になってしまう職員も居る。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>自分のペースで生活しているが、何をしたら良いか分からない時など、支援しながら職員のペースになる事もある為、そうならない様心がけて行く。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>体を動かしたり、運動の声掛けなどにより 発語が出来たり 会話が増えるなど、職員の支援の仕方でも表情が豊かになったりする。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>訴えがある時は対応し、季節や状況に応じドライブや買い物にも出かける。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>定期的な受診、往診又は常勤看護師に相談するなど、迅速に対応できるよう努めている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>その時の状況、状態に応じ対応できるよう配慮している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>何かあった時は相談にのり対処して行く。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>運営推進会議、町内会の集まり等で気軽に遊びに来てもらえるよう働きかけて行く。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議、町内会の集まり等で気軽に遊びに来てもらえるよう働きかけて行く。町内会の集まり等でグループホームの説明をするなどして、理解が深まるよう努めて行く。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員一人一人がもう少し責任を持った仕事に取り組むよう心かけている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	意見などあれば、改善するよう努めて行く。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	苦情、意見など特にない為そう思っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

健康管理
 身体機能の維持
 このホームが自分の居場所と思えるよう自分の役割を持ち、楽しく明るく、家庭的な環境で暮らせる。
 毎月その季節に合った、ぬりえ・制作を行っている。